

岩礁の海洋生物

深い海底谷が釧路湾を 2 つの異なる環境に分けており、それぞれに異なる海洋生物が暮らしています。西側の部分には、砂浜の穏やかな海岸線が広がる一方、東側の部分には険しい岩壁が海岸沿いに根室まで続いています。岩がちな東側に生物が豊富なことには、いくつかの要因が寄与しています。岩はコンブ類が育つ場所になり、甲殻類・貝類・小魚類のすみかになります。さらに、暖流と寒流がここで合流し、この海域に動物プランクトンと植物プランクトンを運んできます。これらの条件が、イワシなどの回遊魚を引き寄せ、豊かな漁場を作り出しています。

環境への適応

魚の中には、ウサギアイナメ（学名：Hexagrammos lagocephalus）やエゾアイナメ（学名：Hexagrammos stelleri）のように、体色を変えて岩に紛れ込む能力を発達させたものがいます。また、トゲカジカ（学名：Myoxocephalus polyacanthocephalus）やヨコスジカジカ（学名：Hemilepidotus gilberti）など、より大きな捕食者から自分を守り、岩の間にとどまれるよう、とげのある体とひれを持つものもいます。